

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 恵庭市子ども発達支援センター

公表日 令和 8年 3月 25日

環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	1 利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	15	0			
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	15	0	職員が休職や研修で不在の場合は、別の職員で対応したり、支援員を振り替えて実施する場合があります。	ガイドラインに基づいた適切な範囲になっていない。	
	3 生活空間は、子どもばかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	0			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもの活動に合わせた空間となっているか。	15	0			
	5 必要に応じて、子ども個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0			
	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	15	0			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0			
	8 職員の職員等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	11		年に数回外部研修に参加しています。オンラインでの研修が増えたので、受講しやすくなったと思います。内部研修は、今年度月2回程度開催しました。	質の高い支援を提供するために、職員の研修は必要と感じています。オンライン研修などを活用してスキルアップに役立てていきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0			
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0		支援プログラムは、市のホームページに掲載し、利用者にも配布しています。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0		定期的に発達評価を実施したり、アセスメントを活用してお子さんの状態を把握するようにしています。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0		計画作成の際、必ず職員と支援会議で検討をしています。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0			
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマットなアセスメントや、日々の行動観察など含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0		定期的な発達評価と、日々の行動観察や保護者から生活の様子を聞き取っています。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も含まれるから、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0		支援の機子だけでなく、総合的な発達評価が行えるよう心がけていきます。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0		同じ内容でも、支援のねらいが異なります。支援のために保護者に活動のねらいを伝えるようにしています。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	0			

適切な支援の提供

19	ご自宅の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ見聞発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	お子さんに適した支援形態を保護者と話し合って実施しています。お子さんの状態によっては、通常の支援のほかに適したプログラムの支援を提案して利用するおこさんはいます。	今後も保護者の声に耳を傾けながら、適した支援の提供ができるよう努めます。
20	支援開始前には聴覚期で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0	支援の前には必ず打合せを行い、活動内容や記録事項、連絡事項などを聴覚期で共有しています。	
21	支援終了後には、聴覚期で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	支援内容や聴覚の動き、お子さんの様子や家族支援について振り返りを行なっています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	毎回記録を取っています。	
23	定期的にモニタリングを行い、見聞発達支援計画の見直しが必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	見聞発達支援管理責任者と担当職員で参加するようになっています。	
24	聴覚期相談支援事業所のサービスマニュアルや関係機関との会議に、そのご自宅の状況をよく理解した方が参画しているか。	15	0		
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を築いているか。	15	0	特に市内の幼稚園・保育園・認定ご自宅園とは情報交換をしたり、お互いの施設に出向いてお子さんの様子を把握できる状況にあります。	センター以外の場所でお子さんかどのように過ごしているのかを知ることは、お子さんの状態を理解することにつながります。引き続き関係機関と連携し相互理解を図っていくと考えています。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルーシブ推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定ご自宅園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0		
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	年度末には、小学校入学児童の就学先と「入学児見聞連携会議」を実施しています。	マニュアルが変わりしますので、利用形態とその家族が安心して小学校生活を送ることができるよう、毎年実施していきます。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の見聞発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会ごと支部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の見聞発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてデータベースや助言等を受けられているか。	12	3	年引回実遊を考えていきましたが、交流先の園の都合で今年度は2回の実遊でした。	未就園児の児童（低年齢）を対象に実施しているので、認知度が低いようです。全編添「くれよん」でも実遊について掲載していますので是非読んでいただければと思います。皆さんに周知できるよう発信方法を検討したいと思います。
32	保育所や認定ご自宅園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のご自宅と活動する機会があるか。	15	0	親子同室の支援形態ですので、状況を伝え合う関係にあります。保護者の方が話しやすい関係を築けるよう心がけています。	支援以外に懇談も実施しています。また、定期的に発達評価を行うので、その結果を踏まえて課題について、引き続き保護者と共通認識を図るようになっています。
33	日頃からご自宅の状況を保護者と伝え合い、ご自宅の発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	家族支援プログラムとしてはおこなっているが、学習会の参加を促したり、発達支援会などの案内をしてお誘いしています。	
35	運営規程、支援プログラムの利用負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	運営規定はセンター内に掲示し、見ることでわかります。支援プログラムや利用者負担等は年に1回保護者に配布・説明をしています。	

関係機関や保護者との連携